



主任研究員・武藤雅威様のご報告に対するコメント

**「観光資源としての鉄道の存在意義
-観光資源化へ向けた取り組みと効果-」について**



運輸総合研究所 第54回研究報告会

2024年1月29日(月) 於:運輸総合研究所

西藤真一(桃山学院大学)

ご研究の概要・意義について

本研究の目的・着眼点

- 鉄道（経営の厳しいローカル線）の価値は、旅客の輸送だけか？
- 観光資源として活用することができるし、その事例・実績もある
- これまで観光資源と考えていなかった鉄道資産
 - これをどう再評価し、観光客誘致を進めているか
 - ➡事例を収集し示唆を得る

そもそも先行研究はあるのか？

観光列車以外のマイナーな鉄道観光資源に関して、
観光資源化(整備)から保存・管理方法、PR活動、地域にもたらす効果へ至る
過程を一体的に捉え、その一般化を試みる研究として新規性あり

秘境駅：牛島（2001）『秘境駅へ行こう！』小学館：”秘境駅ランキング”

→列車到達難易度や秘境度などの項目からランキング

（研究図書ではないが価値づけの視点としてユニーク）

廃線跡の用途転用による活用

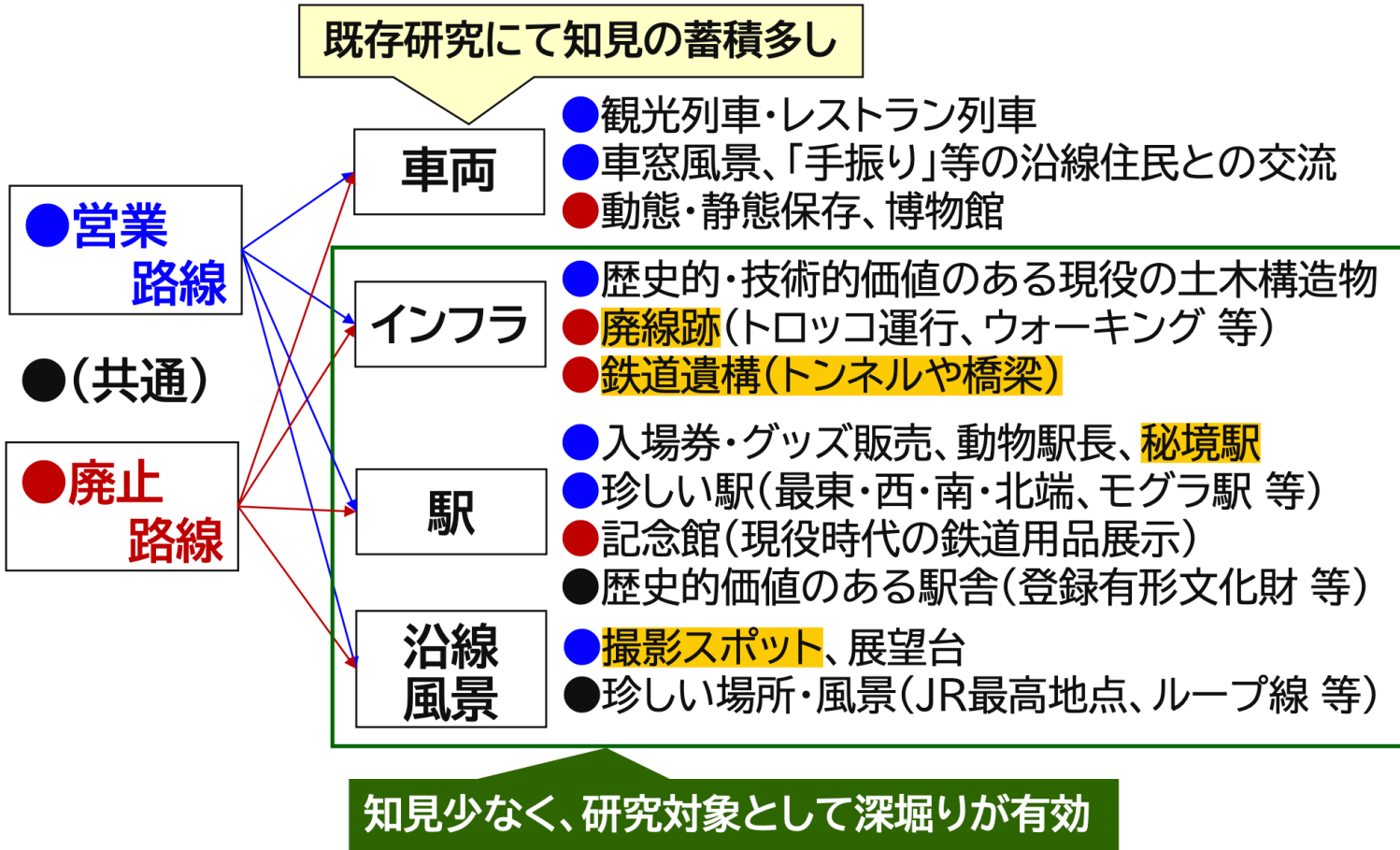
野尻ら（2009）：当時の鉄道配線跡地の活用実態を全国調査→大半は自動車道や自転車道など、バス専用道としても活用する例。駅は公益施設として再整備の例。

廃線跡のアトラクション化

渡邊ら（2017）、渡邊（2021）：レールバイク、トロッコ、運転体験→インフラ所有と運営の「上下分離」、利潤最大化を追求しているわけではない
（ボランティア、維持管理費などの課題）

ご研究の意義：未開拓の研究分野

鉄道観光資源の体系化



本報告では、特にハッチングした資源に着目する

Supported by 日本 THE NIPPON 財団 FOUNDATION

(出典) 武藤 (2023) ご報告スライドから抜粋

● 従来の調査研究

- 観光対象が明確な「観光列車」を対象に分析するものが多い
 - 沿線への入り込み客増加による経済的な効果、地域コミュニティの活性化効果も検討しやすい
- 観光対象が明確な資源でも観光列車以外の研究は少数・単発
 - 秘境駅／廃線跡／鉄道遺構

● 本研究の大きな特徴・貢献

1. 鉄道資源のなかでも観光列車以外に注目している点
2. 鉄道遺産の観光資源としての有用性を検討している点
3. 観光資源化のプロセス／ステークホルダーの関係／取り組みについて取材により丹念に把握しようとしている点

インフラ・ツーリズムの観点から見た 鉄道遺構のさまざまな役割

新しい観光の大雑把なトレンド

- 団体旅行から個人旅行へのシフト: 1970年代～
 - 国鉄: 「ディスカバージャパン・キャンペーン」1970～: 「日本を発見し, 自分自身を再発見する」
 - 小京都ブーム(1970年代): 萩・津和野, 妻籠など地方の歴史的町並みをめぐる旅行
- 大型のリゾート施設から体験型旅行へ: 1990年代ごろ～
 - 「サステナブル・ツーリズム」の振興
 - 1992年「環境と開発に関する国連会議(地球サミット)」を受けて・・
 - 1995年「観光産業のためのアジェンダ 21」: UNWTOなどが作成した観光産業の行動指針

専門ガイドの案内・体験を交えたツアー

歴史的町並みの探訪, 工芸品の産地を訪問

自然生態系に対する関心の高まり: 1993年, 屋久島と白神山地の世界自然遺産登録

修学旅行でも、地域の伝統工芸に触れる & 農作業の体験をするなど

博物館などを「見る」だけでなく、体験しながら学ぶ

- ニューツーリズムに関連する閣議決定: 2007年
 - 「ニューツーリズム」に関する取り組み促進のきっかけ
 - 産業観光, エコツーリズム, グリーンツーリズム, ヘルスツーリズム, ロングステイ, 文化観光
- 「観光立国実現に向けたアクション・プログラム」において「インフラツーリズム」盛り込み: 2013年

ニューツーリズムが注目される背景

- 旅行者ニーズの多様化と成熟化
 - 一律の規格の旅行商品ではそれらのニーズを満たすことは難しい
 - 「多品種・小ロット」のきめの細かい旅行商品の提供
- これまで旅行の対象として認識されなかった地域資源
 - 地域に根付いた「自然」「歴史・伝統」「産業」「生活文化」等
- 地域側では地域の再生や活性化を観光を通じた取り組みの流れ
 - 地域ならではの資源や文化を護り育てようとする取り組み

インフラ・ツーリズムの魅力



▲北海道稚内市：北防波堤ドーム

(写真) いずれも報告者撮影



▲鳥取県境港市：ベタ踏み坂



▲島根県浜田市：幻の広浜鉄道（未成線）

- 巨大な構造物のダイナミックな景観を楽しむ
- 普段行かない場所で、刺激を受けたり、新たな発見ができる
- 施設の役割、つくられた背景を知る
- 子どもはもちろん大人の社会見学でより地域のことを知る

(出典) 国土交通省総合政策局公共事業企画調整課ウェブサイト

<https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/infratourism/about/#:~:text=%E3%82%A4%E3%83%B3%E3%83%95%E3%83%A9%E3%83%84%E3%83%BC%E3%83%AA%E3%82%BA%E3%83%A0%E3%81%AE%E9%AD%85%E5%8A%9B,%E5%91%B3%E3%82%8F%E3%81%86%E3%80%8D%E3%81%93%E3%81%A8%E3%81%8C%E3%81%A7%E3%81%8D%E3%81%BE%E3%81%99%E3%80%82>

土木学会「選奨土木遺産」

- 土木遺産の顕彰を通じた歴史的土木構造物の保存
 1. 社会へのアピール
 - 土木遺産の文化的価値の評価、社会への理解等
 2. 土木技術者へのアピール
 - 先輩技術者の仕事への敬意、将来の文化財創出への認識と責任の自覚等の喚起
 3. まちづくりへの活用
 - 土木遺産は、地域の自然や歴史・文化を中心とした地域資産の核となるものであるとの認識の喚起
 4. 失われるおそれのある土木遺産の救済
 - 貴重な土木遺産の保護

武藤様からも
ご紹介

未成線活用に向けた仕組みづくりの例

全国未成線・廃線サミットの開催経緯

- 2013年 幻の五新線活用有識者懇談会
- 2014年 「幻の五新鉄道活用プロジェクト2014」開催
- 2014年 五條市主催「五新線路線バス専用道」さよならイベント
- 2015年 NPO法人化「NPO法人 五新線再生推進会議」
- 2016年 GOJO大学(市民講座)開講
- 2017年 国土政策フォーラム in 五條
～全国未成線サミット(未成線の利活用による地方創生)～

出典：NPO法人五新線再生推進会議ウェブサイト <https://goshin-railway.net/concept.html>



(写真) 報告者撮影

「木レール」地域資源の木材を活用した鉄道玩具を未成線跡地 1 Kmにわたってセット



国土政策フォーラム in 五條
～全国未成線サミット(未成線の利活用による地方創生)～

住民の交通や物資運搬手段として計画されたものの完成に繋がらなかった鉄道路線である「未成線」。未成線を活用した地域づくりについて、6つの未成線関係者が高野野(五新線)に集い、有識者や行政の関係者も交えて、現状やこれからの予定や夢を語りまします。

また、五條市高野野地域に現存する五新線跡地までの木製レールを活用した玩具の走行や整理も入ることのできる五新線のトンネルの見学などを実施し、五條市固有の道徳とともに地域の豊かな自然環境をPRし、地域活性化につなげることを目的としています。

入場無料 | 先着250名
(事前申し込み制)

11月 平成29年3月4日(土)
13:30～16:30(開場11:30～)

会場 五條市西吉野コミュニティセンター
奈良県五條市西吉野町八ッ井451

主催 国土交通省、五條市、NPO法人 五新線再生推進会議、土木学会土木地産委員会

協賛 NPO法人 五新線再生推進会議

3月5日 第4回 木レールイベント
会場 五條市城ヶ丘五新線跡地

木レールイベントは長さ1000mの木製レールの上を子供用と大人用の2種類のミニ列車を走らせ、2017年に開催した第3回に引き続き、開催委員も変更いたしました。市販の子供用プラスティック製列車と、オリジナルのミニ列車(木製)を用意し、子供用と大人用の2種類のミニ列車を走らせ、2017年に開催した第3回に引き続き、開催委員も変更いたしました。市販の子供用プラスティック製列車と、オリジナルのミニ列車(木製)を用意し、子供用と大人用の2種類のミニ列車を走らせ、2017年に開催した第3回に引き続き、開催委員も変更いたしました。

コーディネーター 岡田 昌彰
パネリスト 牧野 武人、森口 誠之

後援 国土交通省、五條市、NPO法人 五新線再生推進会議、土木学会土木地産委員会

観光誘客のみならず、地域住民の学びや交流拠点としての活用がきっかけ

全国未成線サミットの加盟団体の例

- 交流人口獲得＋地域住民の交流の場として活用
 - 五新線, 広浜線(今福線)
- 交流人口獲得を目指した地域づくりの一環で活用
 - 油須原線:トロッコ運行
 - 江の川鉄道(三江線):トロッコ運行
 - 高千穂あまてらす鉄道(高千穂線):トロッコ運行:著名な観光地
 - とことこトレイン(岩日北線):トロッコ運行:錦川沿線

「全国未成線・廃線サミット」の加盟団体

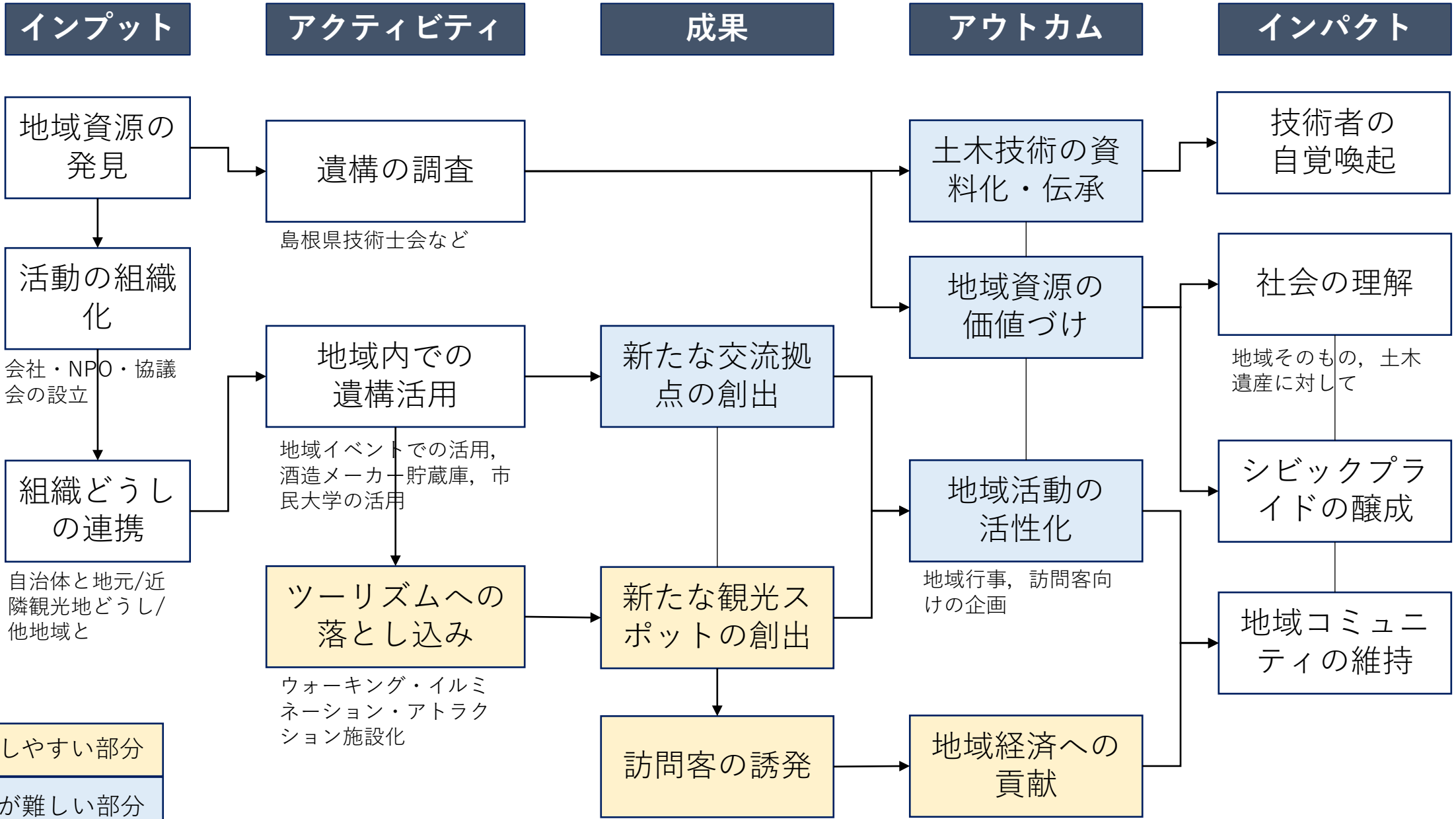
	五新線	広浜線（今福線）	油須原線	江の川鉄道	高千穂線	岩日北線
組織	2015年, NPO法人五新線再生推進会議	2016年, 今福線を活かす連絡協議会	赤村トロッコの会	2018年, NPO法人江の川鉄道	2008年, 高千穂あまてらす鉄道株式会社	錦川鉄道株式会社
目的	地域資源を生かした地域の活性化	今福線に関するイベント等の情報共有, 他団体との連携, 勉強会等	列車遊具の運行（トロッコ）	三江線の跡地等鉄道資産や鉄道文化の継承 観光・産業・文化の振興、交流・関係人口の増加 旧三江線沿線及び周辺地域の地域振興に寄与すること	列車遊具の運行（トロッコ）, 地元雇用の拡大, カフェテラスの運営	列車遊具の運行（トロッコ）
取り組み例	<ul style="list-style-type: none"> 未成線区間での「木レール」イベント 城戸駅の鉄道公園化「五新鉄道トレインパーク」 NPO関係者による市民講座の企画「GOJO大学」 2015年に第1回全国未成線サミット開催 	<ul style="list-style-type: none"> 「今福線ガイドの会」による観光案内企画 地域の自治会によるウォーキングイベント等 島根県技術士会による土木構造物の研究（成果は毎年公表） シンポジウムの企画 他団体との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 1995年, 廃線された上山田線区間での保専用軌道自転車イベント 保存鉄道計画：トンネル内の水道敷設工事による道床嵩上げにより保存鉄道は実現ならず 2003年からトロッコ運行 	<ul style="list-style-type: none"> 三江線鉄道公園（邑南町が取得した旧宇都井駅, 口羽駅を鉄道公園化）の指定管理 指定管理業務の一環としてトロッコ運行 三江線沿線の歴史・文化の調査・記録 	<ul style="list-style-type: none"> トロッコ列車の運行：10便/日（定員60人） 高千穂鉄道時代の車両を使った運転体験 	<ul style="list-style-type: none"> 2002年「とことこトレイン」運行開始 2003年, トンネルライトアップ「きらら夢トンネル」 2017年, 錦町駅舎リニューアル, 鉄道資料館新設等

（資料）各団体ウェブサイトから作成

交流人口の規模は地域差がありそう（推測），地域資源の活用法は地域次第

さまざまな目的を持つ 「地域活性化」をどう考えるか

試案：インフラツーリズムのロジックモデル



まとめ：ご研究の発展が期待される

- 我が国ではほぼ未開拓の研究分野
 - 「取り組み事例」がいくつかあるものの・・
 - 事例のとりまとめをされているところは意義深い
- 今後のご研究に向けた視点として・・
 - 「マイナーな観光資源」をどのように価値づけるか？
 - 経済的な価値の把握は重要なテーマ
 - 他方、地域資源の価値は経済価値にとどまらない点にも留意
- 今後も情報交換などさせていただければ幸いです！